

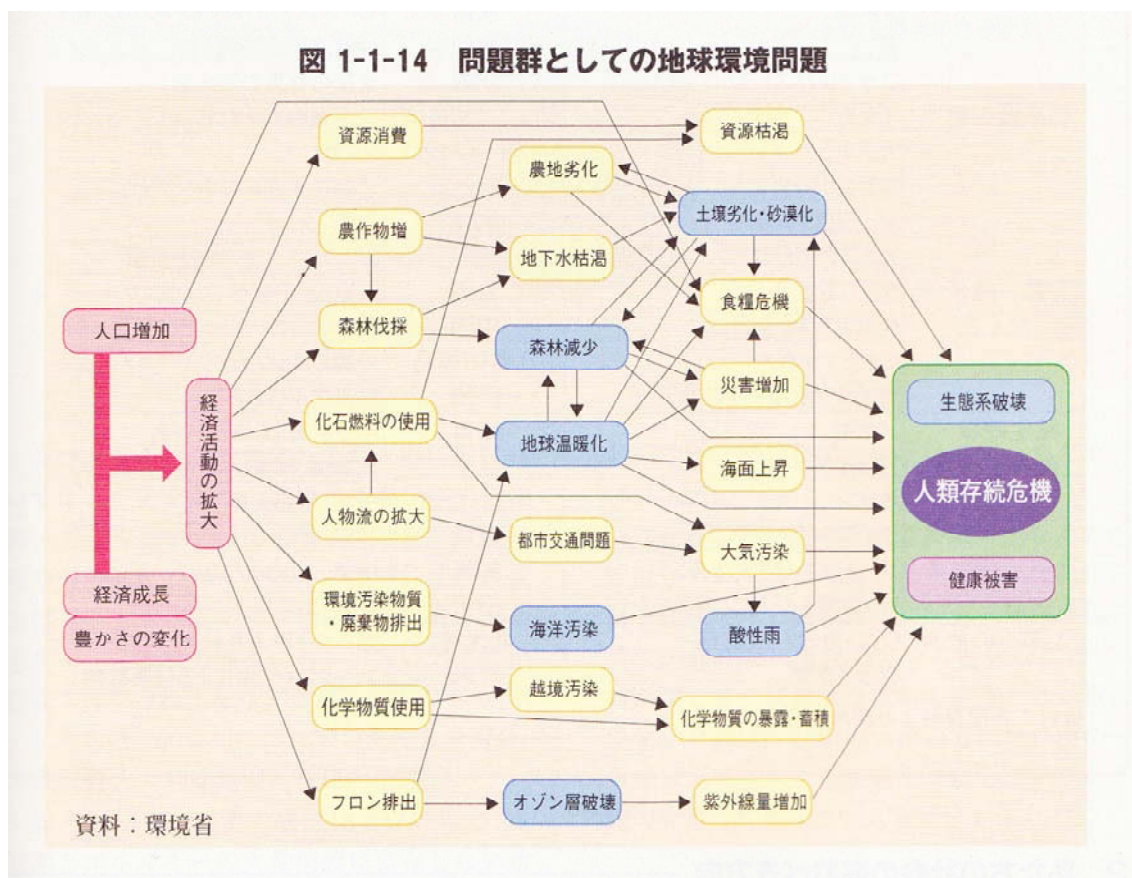
環境教育のすすめ

連載 No.2 2009.4.13

環境教育部会

地球規模の環境破壊

人類の生存を脅かす環境破壊は、温暖化の問題だけではありません。オゾン層の破壊、森林の減少、酸性雨、化学物質による汚染、土壌の劣化・砂漠化、等々。たくさんの問題が私たちの目の前に現れています。



(環境省発行 2001 年版環境白書より)

これらの問題はすべて、人間の行動が原因となっています。産業革命そしてそれ以後の工業化社会の「発展」に伴って大量の化石燃料が使われたことが温暖化の原因になっています。

「夢の物質」といわれるほどに便利なフロンガスがオゾン層の破壊という問題をもたらしました。森林資源を利用したり、森林を農地にするために木を切り倒して森林破壊を進めたのも私たちです。環境ホルモンをはじめとする様々な有害化学物質を作り出したのもまた人間です。

自らが作り出した原因によって、自らを滅びかねない状況に追いやっています。これらの地球規模の環境の問題が顕著に現れだしたのは、それほど古いことではありません。ほんといつ最近なのです。

高度経済成長が始まったのは1960年代でした。環境破壊が目に見えて多くなり、各地に多くの公害問題が出てくるのはこの時期からです。

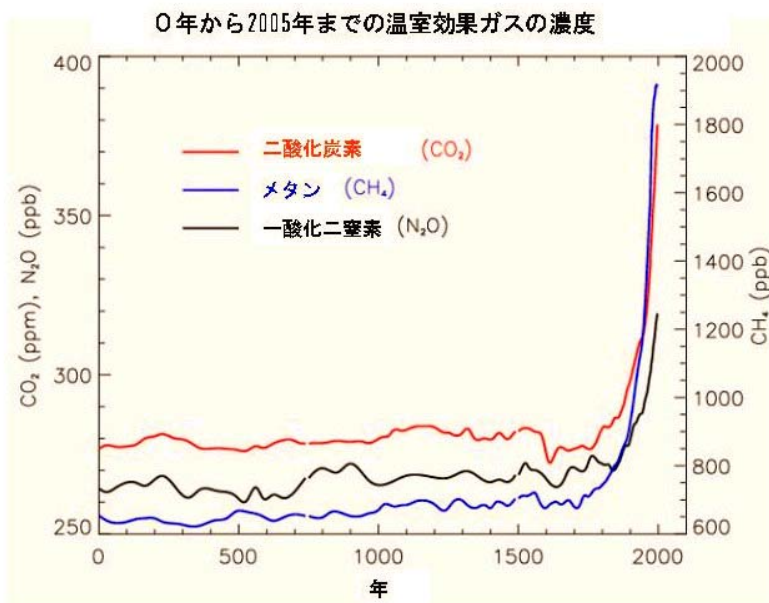
それ以前に環境破壊がなかったわけではありませんが、地球規模で環境が変化し、人類そのものの生存が脅かされるような事態になろうとは、ほとんどの人は思ってもいませんでした。

人間は長い歴史の中でずっと、地球と地球環境は事実上無限大だと思って生活してきました。たしかに農業が中心であった産業革命以前は、人口も少なかった時代で、薪を燃して二酸化炭素を出しても、その二酸化炭素は植物によって吸収され、二酸化炭素を利用して作ったデンプンが植物の体をつくり、植物が生長した薪になる。という具合にぐるぐるぐるぐる循環していました。無限のループができていたわけです。これなら地球は無量大と考えるても良かったのです。

自然界に存在しないような、分解が困難な化学物質は作られませんでしたから、人間が捨てたゴミは自然が分解してくれました。子供の頃に親から「川の水は一問下れば真水だ。」と聞かされて育ちましたが、まさにその通りで、自然の力を上手に利用した、きわめて健全な循環型社会が形成されていました。

ところが、18世紀後半に始まった産業革命から様子が変わってきます。蒸気機関を動かすために、石炭を大量に地下から掘り出して燃やし始めました。地下に閉じこめられていた炭素を取り出し、二酸化炭素にして大気中に放出するようになりました。地球の自然はそれに対応できませんでした。大気中の二酸化炭素は次第に増えていきます。

第2次世界大戦後は急速に石油の消費が増えていきます。天然ガスの使用も始まりました。二酸化炭素濃度はどんどん増加します。1800年に280 ppmであった二酸化炭素濃度が、現在では380 ppmにまでなっていました。



活発になった化学工業からは、多くの化学物質が環境に送り込まれました。オゾン層の破壊や化学物質による汚染が始まりました。人口の増加に伴い、より多くの農地が必要になり、また工業の発達によってより多くの資源が必要になり、森林が破壊されました。

環境の問題は人類にとって大変な問題になりました。